

# AOI通信

静岡音楽館倶楽部情報誌  
JAN. 2026 No.120

冬号

## 静岡音楽館倶楽部 会員募集中!

年会費2,000円で、様々な特典を受けることができます。  
AOIで開催される多様なコンサートと、より身近に、より手軽にお楽しみいただくための会員制度です。

こんなにおトクな特典が!

- 特典① チケット10%OFF**  
1公演2枚まで(一部を除く)
- 特典② チケット先行販売**  
一般発売に先駆け、いち早くチケットをお求めいただけます。
- 特典③ さらにお得になる特典**  
会員の方だけがご利用いただける、特別な割引券をご用意しています。

響き合う時間を一緒に!  
あなたもAOIで、  
感動のひとつを  
味わってみませんか

※内容は公演により異なる場合があります。詳しくはスタッフまでお尋ねください。

応募締切  
2026年  
3/16(月)  
必着

～小学校4年生から中学校3年生を対象とした～

## 第27期「子どものための音楽ひろば」 受講生募集

音楽好きなみんな  
AOIに集まろう!!

「子どものための音楽ひろば」は、この春からリニューアル&パワーアップ!  
耳や目・手・足・頭…身体のいろんな部分を使い、音楽をもっと自由に、より幅広く楽しめます。  
プロの芸術家が五感を使って音楽の楽しみ方を伝授し、みんなの「好き」「得意」を発見できる場です。新しい仲間といっしょに、これまでにない音楽の世界を体験してみませんか?

村治佳織(ひろばの塾長)

AOIの第3代芸術監督、日本を代表するギタリスト。コンサートや「音楽ひろば」など、AOIの活動をプロデュースしています。ふだんはコンサートでギターを弾いたり、大忙しの音楽家。テレビやラジオにも出ています。

宮内康乃(音あそび・作曲)

声やからだ、身近なモノや楽器などを使って、シンプルなルールのもとにみんなとコミュニケーションしながら自分らしい音を紡ぎ出していきます。楽譜が読めなくても、楽器が弾けなくても大丈夫。「作曲」なんて難しく考えず、音を楽しみながら自由に表現していきますよ。

## 世界の音楽

Anyango (ケニアの音楽)

ようこそ! アフリカの音の世界へ  
こんにちは! Anyangoです。アフリカ・ケニアの伝統楽器「ニャティティ」を演奏しています。Anyangoとは、ケニアの言葉で「午前中に生まれた女の子」という意味。ニャティティの音やリズムあそび、ダンスでアフリカの風を感じてみよう! 体を動かして、世界とつながろう!

REO MATSUMOTO (ハンドパン・ヒューマンビートボックス)

ふだんの講座以外にも  
いろいろ体験!

- ♪コンサート、美術館の鑑賞
- ♪東京文化会館連携 ワークショップ

お申込み・お問合せ先

第27期「子どものための音楽ひろば」係  
TEL.054-251-2200 FAX.054-253-3322  
E-mail: info@aol.shizuoka-city.or.jp  
9:00~21:30 (月曜日休館、ただし祝日開館、翌平日休館)  
※HPからも募集要項をダウンロードできます。 ※都合により内容を変更する場合があります。



https://x.gd/6X2xJ

## 静岡音楽館倶楽部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかに下記までご連絡ください。なお、2025年度をもって退会をご希望の方は、2026年2月末日までに、静岡音楽館倶楽部事務局へ退会届をご提出ください。ご提出のない場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

## 静岡音楽館倶楽部 法人会員 (2026年1月末現在)50団

- (株)アオイテレック ●(株)ジェイアール東海ホテルズ
- (株)SBSプロモーション ホテルアソシア静岡
- かわした歯科クリニック ●(株)タミヤ
- (株)メディア・ミックス静岡

## コンサートシリーズ2025-26

主催 静岡音楽館AOI 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

特別協賛 せいしん 静岡市金庫

協賛 A アイホールディングス

studio FORUM HOUSE & SHOP DESIGN

## 次のことを予めご了承の上、 チケットをお求めください。 皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

- ※価格は税込です。
- ※都合により内容を変更する場合があります。
- ※お客様のご都合によるチケット代の返金、座席の変更はお受けできません。
- ※演奏中のご入場、および他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。
- ※未就学児はご入場いただけません。(一部公演を除く)
- ※託児サービスはございません。

## 開場時の諸注意

- ※8階ホールへのエレベーターの運行は、開場時間以降となります。
- ※開場時は1階エレベーター前でお待ちの方を優先してご案内いたします。
- ※地下からご来場のお客様も、一旦1階にて列にお並びください。

## JR静岡駅北口を出てすぐ左



CONCERT HALL SHIZUOKA  
**静岡音楽館 AOI**

月曜日休館(ただし祝日開館、翌平日休館)9:00~21:30開館  
〒420-0851 静岡市葵区黒金町1番地の9

お問合せ  
**054-251-2200**

静岡音楽館AOI 検索



現芸術監督

野平一郎

新芸術監督

村治佳織

クロストーク

野平一郎

インタビュー

子どものためのコンサート  
野平一郎 ピアノリサイタル  
～記憶と現在～  
**音の旅**

中澤未帆(オルガン)インタビュー

オルガン¥500コンサート スプリング・コンサート 中澤未帆

音楽館倶楽部 会員募集中!

第27期「子どものための音楽ひろば」受講生募集

現芸術監督

新芸術監督

# 野平一郎 × 村治佳織

## クロストーク

静岡音楽館AOIの芸術監督として長きに亘り指揮をとられた野平一郎さんと、次期芸術監督に就任いただく日本を代表するギタリスト 村治佳織さんに、これまでの歩みや当館への思いを伺います。

まずはお二人の最初の出会いからお話いただけますでしょうか。

(村治)

1997年、私がパリに留学する直前に、先生からコメント入りのCDを直接いただいたのが初めての出会いです。

(野平)

当時、友人の福田くん(ギタリスト:福田進一氏)から村治さんという素晴らしい若いギタリストがいることを、たくさん伺っていました。

(村) 私は福田先生がパリ留学から帰国後の初期の生徒なので、同時期にパリに留学されていた工藤重典さん(フルート奏者)や野平先生などと福田先生とのコンサートがたくさん行われていて、野平先生の演奏も拝聴していました。

お二人の「音楽」の原点は…?

(野) 私は、ピアノです。始めた当時は本当に練習が嫌いで、中学生の時には先生に一度破門されました。だけど何とか続けさせてほしいと謝罪して、それから作曲の道にも進むことになりました。ただ、音楽はずっと好きでした。両親がレコードのコレクターで、ジャンルを問わず好きでした。村治さんはどのようなレパートリーから練習を始められたのですか。

(村) 最初は、クラシックのレパートリーで言うと、ヴィラ=ロボスのエチュードの第4番を小学1年生から始めて、それを長い時間をかけて弾いた記憶があります。

(野) ギターはいつから家にありましたか。

(村) 実はあまり覚えていません。おそらく赤ちゃんのときからギターを触っていたはずですよ。

(野) なるほど。他の楽器はやったことはありますか。

(村) 4歳からピアノを。尚美学園でピアノとソルフェージュを週1回習っていました。でも5年生ぐらいからピアノはお休みということになりました。そしてその4年後に東京国際ギターコンクールで優勝させていただき、その翌年にビクターからデビューしました。その時は、ギター曲ではない「パガニーニの第24番」を目玉曲としてデビューCDを作りました。

(野) ピアノを始めた頃はギターのレパートリーで知っている曲はあまりなかったのですが、最初に聴いた時から、ヴァイオリンやピアノに比べてこの楽器はクラシックだけではなくて、いろいろなジャンルに適應できる楽器だなと感じました。ギターは正面切っている分野に横断して行ける、ふところの広い楽器ではないかと思えます。

(村) 正面切ってというところ、それをみんなが受け入れてくれるんですよ。他の楽器でやるとちょっと違う路線に変化してしまったのかなという見方をされやすいかもしれませんが、ギターは何でもいいんじゃないかみたいな感じでできる。

(野) とても面白い楽器だと思います。それで静岡音楽館に関わってから10年目に間宮芸術監督から次の監督をやってくれと言われ、その時最初に考えたのが福田くんに企画会議に入ってもらおうということでした。曲目やコンサートのシリーズに広がりが出ると思ったからです。

(村) そのおかげでジャパン・ギター・カルテットが生まれましたね。

(野) その後、村治さんを含めた福田くんのお弟子さんたちが新たなギターの世界を築いて、さらに村治さんがAOIの新芸術監督に就任していただけるということで、さらなる広がりができているのがすごく嬉しいです。

音楽家としてのお互いの印象を教えてください。

(野) 村治さんのギターは本当に美しく素晴らしいけれど、それだけではなくてメディアへの露出がとても多く、活動が多岐にわたっています。演奏の成果ももとより、いろいろなところに通じているっていうことが、静岡音楽館の催し物をより多彩に広げていく原動力になるのではないかと期待しています。

(村) 広げていきたいですね。

(野) コンサートを企画するということは、自分がどうやってその音楽を好きになり、魅力を感じたのかという経験や体験を聴く人に伝えていきたいというのがあります。思考を広げていかないと、自分の趣向は歳をとることに集中し狭くなってしまいますので、そこを広げていきたい。

(村) それはいい意味でお客さんの興味を広げるということと同時に、より深めていくってことでしょうかね。現代音楽はそのいい例ですね。

(野) そうですね。これは初代芸術監督も、2代目の私も作曲家だったことから、現代の創作の世界と関係を保ってきました。そして日本で直接そういう関係を世界と築いているホールは当時あまりありませんでした。

(村) それは世界の作曲家とも連なりそうですね。そこは私もそのエッセンスを吸収したいので、アドバイスをいただきたいと思っています。

(野) 村治さんの目で見、耳で聴いて面白いと思うものをどんどん取り上げていただければいいのかなと思います。

(村) ひとつ考えているのは、AOIで開館以来続けてきた委嘱作品がたくさんあるので、アーカイブ・シリーズを実施することです。来年度はレジデンシャル・アーティストに就任する大瀧拓哉さんに取り上げていただくことになりました。

野平さんにお伺いします。芸術監督として新しい取り組みも新設され、より多くの方々がAOIに来ていただけるように、あるいはAOIの舞台に立っていただけるような事業を実施しています。これらの事業はどういった考えで始められたの

か、あとこれまでの30年を振り返って率直にどういった思いがありますか。

(野) 僕はずっといろんな企画があるべきだと思っていました。専門家を唸らせる企画もあるべきだし、アマチュアの人々が普通に音楽を楽しめる機会を提供する場を作ることも大切なことだと考えています。それで「アマチュア・アンサンブルの日」を提案しました。

(村) ステージで演奏する楽しさを味わうということですね。

(野) そうです。そこでご自分たちの今までの成果を発表し、それを聴衆が聴くというようなことの提案でした。

(村) 「静岡の名手たち」オーディションも素晴らしい企画だと思います。

一方でクラシックを好きな方向けのものはどうでしょうか。今まで携わってきたコンサートの中で、思い出のコンサートはどんなものがありますか。

(野) まず、世界的サクソフォン奏者のクロード・ドラングルは印象に残っています。電子音響とサクソフォンの作品をやってもらいました。2度やってもらいましたが、2回目のときはマルコ・ストロツァというイタリアの作曲家にAOIから作品を委嘱し上演しました。ちなみに、その曲でコンピュータソフトの制作に関わったアリシア・コントは、今、パリの国立音響研究所の科学部門のトップにいる人で、その時に開発したソフトが今は世界中で使われています。

(村) それは印象深いですね。そういう最先端のものもいいですね。

(野) 他には就任1年目にやった小林道夫指揮による《マイ受難曲》、田中泯や宮城聡の演出による間宮芳生のオペラ《ボボイ》、モンテヴェルディの《聖母マリアの夕べの祈り》、他にはジャパン・ギター・カルテットも記憶に残る公演です。

ご自身がお出演されたものだとどうでしょうか。

(野) J.S.バッハの平均律の曲集を、ピアノとオルガンとチェンバロを使ってやったコンサートは印象に残っています。

(村) とても意欲的なコンサートですね。ピアノ、オルガン、チェンバロと3つの音色が一度に楽しめる。





これから村治さんが芸術監督になるにあたって、どういったことをやっていきたいとお考えですか。

(村) 私自身がクラシックギターを広めてきた経験を、もう一度静岡音楽館を通してやっていけばいいのだと考えています。その一環として、まずチラシなどのデザインを一新し、視覚からもクラシック音楽の素晴らしさをアピールできるよう頑張っていきたいと思っています。

あとは新たな聴衆の獲得です。通常のコンサートとは別に、静岡市内の学校でのアウトリーチ・コンサートなどを行い、直接良さを実感していただきたいです。演奏家でもあるという強みを生かして、新たな聴衆の獲得を意識していきたいです。

最後に、お二人からAOIのお客様へメッセージをお願いいたします。

(野) これまで多種多様なプログラムに反応し、熱心に聴いてくださったこと、本当に感謝しています。我々にとって演奏したり曲を聴いたりしてもらって無反応というのが一番怖い。皆さんが真剣に聴いてくださって、ある時は肯定的、ある時は否定的に考えてご意見をいただいたこと、そして何よりも自分達の静岡のホールという意識を持っていただけたことが何よりでした。

(村) 私は、皆様に「初めて」を感じてもらえる企画をたくさん考えていきたいと思っていますので、期待してください。

この3月で退任する野平一郎芸術監督に、子どものためのコンサートへの思いをお聞きました。

静岡音楽館AOIが開館して以来、AOIのステージで多くのアーティストたちと共演し、オーケストラを指揮したりと、たびたび出演していただきましたが、「J.S.バッハ：平均律クラヴィーア曲集」(2008、2025)や「ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ選集」(2009)などのリサイタルも、とても重要なコンサートでした。そして芸術監督として最後に、子どものために演奏していただきますが、芸術監督としてこの20年間、静岡の子どもたちに、どんなふうに音楽を聴いてもらいたいと考えてこられたのでしょうか。

いろいろな音楽を楽しんでもらえるようになれば嬉しいな、という思いでした。子どもは、まだ頭であれこれ考える前に、全身を使って音楽を吸収していきます。もちろん、次第に年を経るごとに自分が好きな音楽、自分が心を揺り動かされる音楽というものを頭で考え、意見がはっきりしてきますが、大人が子どもに対して考えがちな「子どものための音楽」だけではなく、いろいろな音楽を聴いて欲しいなと思って、音楽館の子どものためのコンサートを企画してきました。音楽をホールで聴く、ということはある程度、作曲家・演奏者が表現するものに対しての聴く側のマナーも必要ですし、集中を強いられるかもしれませんが、音楽を簡単にスマホで聴いたり、「ながら」で聴くだけではなく、子どもたちにはそういう風にもホールで享受する音楽もあるということを知ってほしいし、とても感受性が発達してくると、ホールで聴く「響き」がどれほど心地よいのかが理解できるでしょう。子どもを非常に大切に思っていることは、音楽館に通ってくれる若い人達を育てて、どの世代でも音楽を好きになってくれる人を増やさなければならぬという使命が芸術監督にはあるからです。

芸術監督自らが小中学校で演奏するアウトリーチ・コンサートは、これまで22校を訪れました。どんな思いで続けてこられましたか？

もし演奏に反応して、その人が後々音楽館を訪れてくれたら良いなと夢想しながら続けていました。毎回必ず、音楽館にもぜひ聴きにきてください、と話してきました。今思い出すといろいろな学校がありましたね。でも総じてみなさんが熱心に聴いてくれました。その学校にあるピアノで弾くこと、自分の学校の楽器の「音」に注目してもらいました。それは大体購入から50年以上が経っているのが普通で、メンテナンスもあまりされていない楽器も中にはありました。しかしどんなピアノでも、それを使って美しい響きを作らなければならないのが演奏家の使命であり、苦勞を見せないようにやってきました。また最初のうちは体育館の舞台上で弾き、生徒はかなり下に座っているという形でしたが、コミュニケーションがとりづらく、なるべくピアノを生徒の位置まで降ろし、ピアノを囲んで聴けるようにしたこともあります。鍵盤やペダルが見えたり、演奏者の息遣いを感じられる。どれだけ演奏者が集中してことに及んでいるかを伝えたかったのです。生徒数が多い学校もそれなりに印象が強いですが、市街地から車で1時間くらいかかる山間の小学校で数人の聴衆を前に、刺さるような熱心な視線のもとで演奏したことは忘れられません。その後廃校になった学校もあると聞いています。

ところで野平さんご自身は子どものとき、どんな感じだったのでしょうか。ピアノのレッスンのことなど。

レッスンは最初に行くのが辛かったですね。グリコのおまけを毎回帰りにご褒美にくれる先生で、かろうじてそれを目当てに通ってました。「さらう」のがとても嫌だった。でも音楽そのものはとても好きで、親が買って来たレコードなどをクラシック中心に聴いて、次第に興味を持つようになりました。近所に作曲家の黛敏郎氏が住んでいて、息子さんのりんたろう君とは小学校の友達でした。よく彼の家に遊びに行っていたのはピアノを弾きまくっていて、お父上の睡眠を妨げたと後で文句を言われたほどでしたから、ピアノを弾くことが一番好きなことだったのは確かです。後は、江戸川乱歩の全集があって片っ端から読んでいたり、とても物静かな子どもだったようです。



# 野平一郎

インタビュー

静岡音楽館AOI  
芸術監督

## AOIの第3章、いよいよ開幕! コンサートシリーズ2026-27 [前期] チケット3/21 (土)より発売

(静岡音楽館倶楽部会員先行発売3/14 (土)より)  
後期シーズン(10~3月)のラインナップ及びチケット発売日は5月末に発表予定

### 新しいAOIのガラ・コンサート 祝宴

5/30 (土) 15:00 開演 (14:30 開場)  
\*17:30 終演予定  
指定席 ¥6,000 (会員 ¥5,400) [Pコード=309-302]

22歳以下  
¥1,000

出演  
村治佳織 (ギター)、幸田浩子 (ソプラノ)、上野耕平 (サクソフォン)、  
田中傳次郎 ほか (歌聲/役者/方)  
大瀧拓哉 (ピアノ、静岡音楽館AOIレジデンシャル・アーティスト)

曲目  
村治佳織：バガモヨ ~タンザニアにて~  
素舞子 (三番舞)  
旭井翔一：エクローグ (田園詩)  
F.リスト：ハンガリー狂詩曲第13番 変イ短調 S.244/13 (A.ヴォロドス 編)  
R.ロジャース：ミュージカル《サウンド・オブ・ミュージック》メドレー (藤満健 編)  
J.シュトラウスII世：春の声 op.410  
J.ロドリゴ：アランフェス協奏曲 第2楽章  
ほか

### 魅惑の中東音楽 コンスタンティノーブル & アブライエ・シソコ

6/6 (土) 15:00 開演 (14:00 開場)  
指定席 ¥5,000 (会員 ¥4,500) [Pコード=309-308]

22歳以下  
¥1,000

出演  
コンスタンティノーブル  
キヤ・タバシアン (シタール、ヴォーカル)  
ビエール=イヴ・マーテル (ヴィオラ・ダ・ガムバ)  
パトリック・グラハム (打楽器)  
アブライエ・シソコ (コーラ、ヴォーカル)

曲目  
キヤ・タバシアン：夢想、アホウエ・ヴァシ  
アブライエ・シソコ：デンキロ、ソウトウロ  
キヤ・タバシアン/アブライエ・シソコ：マヤマ、河口、  
イスファハンに向かって、  
トラヴェルセ、シリアフ、出発、海底の魚

### ダン・タイ・ソン ピアノ・リサイタル

6/13 (土) 16:00 開演 (15:30 開場)  
指定席 ¥6,000 (会員 ¥5,400) [Pコード=309-309]

出演  
ダン・タイ・ソン、エヴァ・ポブウォツカ\* (ピアノ)

22歳以下  
¥1,000

曲目  
F.モンボウ：前奏曲第1、7番  
《風景》より《湖》  
《歌と踊り》第8曲  
F.ショパン：ノクターン第1番 変イ短調 op.9-1  
ポロネーズ第1番 変ハ短調 op.26-1  
3つのマズルカ op.50  
バラード第1番 ト短調 op.23  
F.シューベルト：ロンド イ長調 op.107/D951\*  
M.ラヴェル：マ・メール・ロワ\*  
F.ブーランク：2台のピアノのためのソナタ\*  
2台のピアノのためのエレジー\*  
《仮面舞踏会》の終曲によるカプリッチョ\*

### 静岡音楽館AOI × 東京文化会館 連携事業 「静岡の名手たち」「東京音楽コンクール」ジョイント・コンサート オペラ・アリアの花束

7/11 (土) 11:30 開演 (11:00 開場) \*12:30 終演予定 \*休憩はありません。  
指定席 ¥2,000 (会員 ¥1,800) [Pコード=309-312]

出演  
小川葉奈 (ソプラノ/第22回「東京音楽コンクール」声楽部門第1位)、  
伊藤尚人 (バリトン/第27回「静岡の名手たち」オーディション合格者)、  
大貫瑞季 (ピアノ)

22歳以下  
¥1,000

曲目  
G.ドニゼッティ：歌劇《ドン・パスクワレ》より二重唱《準備はできたわ》  
G.ロッシニ：歌劇《セヴィリアの理髪師》より《今の歌声は》  
なかにしあかね：今日もひとつ  
P.I.チャイコフスキー：騒がしい舞踏会 op.38-3  
歌劇《スベードの女王》より《貴方を愛しています》  
F.リスト：《リゴレット》バラフレース S.434、H.267  
G.ヴェルディ：歌劇《リゴレット》(ハイライト)  
[連携] 東京文化会館 (公財) 東京都歴史文化財団

### 静岡音楽館AOI 2026-27年度レジデンシャル・アーティスト 大瀧拓哉 ピアノ・リサイタル

9/26 (土) 15:00 開演 (14:30 開場)  
指定席 ¥3,000 (会員 ¥2,700) [Pコード=309-314]

出演  
大瀧拓哉 (ピアノ)

曲目  
J.S.バッハ：フランス組曲第5番 ト長調 BWV816  
間宮芳生：ピアノのためのエチュードIV~VI-ピアノのために-C2005年度 静岡音楽館AOI委嘱作品  
F.ジェフスキ：《不屈の民》変奏曲

# 野平一郎

（静岡音楽館AOI）  
芸術監督



©YOKO SHIMAZAKI

3月のコンサートでは、野平さんが高校生のときに作曲したという《バラード》を演奏していただきますが、この曲を作曲したとき、どんな気持ちでしたか？

作曲というのは、ちょっと気の利いた旋律を作ったり、気に入った和音を並べたパッセージを書くだけのことは根本的に違う行為、つまり最初から最後までをきちんと頭の中で構成するというのを初めて藝大の附属高校で学びました。初めて二重線を引いて最後まで書いた作品です。もちろん今となっては恥ずかしいところも多々あり、当時よく聴いていたドビュッシーやラヴェル、初期のシェーンベルクの響きなどがない交ぜですが、15歳の時の偽りのない表現なので手を入れずにそのまま演奏してみます。ラヴェルの《序奏とアレグロ》などの影響で、ゆっくりな部分とアレグロのワルツによる2部分からなり発展します。作曲、というか物を作るということは「真似」から始まります。その中でモデルになった作品と自分との違いが、次第に明らかになり、「自分」の発見につながっていきます。

もう一つの私の興味は、人間が一生かけて物を作っていく時に、どのような進歩があり、またどのような同じ反復があるのかを考えているからです。今回、スタートとなるこの作品と72歳の作品を並べてみるのも、こうした興味があるからです。

野平さんのピアノ曲集《音の旅》を発表会で演奏する子どもたちもたくさんいますが、演奏にあたってのアドバイスを。

30～31歳のあたりでまとめた曲集です。毎月ピアノの雑誌「ムジカノーヴァ」の巻末に連載していました。ちょうどパリに住んでいる頃で、自分自身の作品の語法や考え方が明確になった時期でしたが、こうした調性の作品を書いてみると、それも割とすらすら進みました。子どもたちが取り上げてくださるのは、とても楽しみです。30曲の中にはさまざまなスタイルの作品があり、一つ一つ見える景色が違います。音の色合いの違いに注意しながら、楽しんで弾いてください。CDも販売していますが、絶対に作曲者の演奏を真似しないように(笑)。

そして、近作の《思い出》と、今回のコンサートのための新しい作品《未来の子供達へ》はどんな作品でしょうか。

《思い出》は、カワイの「あんさんぶる」という雑誌に連載していました。30歳くらいで書いた《音の旅》と対になるような曲集を考えていました。70歳に近くなってから作曲したので、思い出をたどる旅にしました。そこには作曲家の思い出や旅行先での思い出、人物を思い出したり感情がよみがえってきたりと、さまざまな作品が出来ました。40年前と同じく、やはり調性を中心に書きましたが、すでにあるスタイルの模倣ではなく、自分の語法としてやや大人向きの曲集になってしまったかもしれません。どの思い出を弾こうか、思案しているところです。また新しい作品については、現在(8月末)どのような曲になるのか考えている最中ですので、詳しくは語れませんが期待しててください。

シューマンの《子どもの情景》やドビュッシーの《子どもの領分》は、子どもが演奏するためというより、大人が子どものときの感覚をイメージしての音楽ですが、親子で聴くためのポイントはありますか？

シューマンは各曲に付けられたタイトルを参考にして聴いてみてください。作曲家がどのような気持ちだったかが、共有できると思います。ドビュッシーは親の愛情が高じて、娘のシュシュちゃんがまだ3歳に満たない頃に書いてしまいました。完全なフライングです。各曲ではシュシュちゃんが持っていたお人形などがタイトルとなっています。

日本の現代音楽、西村朗、細川俊夫、武満徹の、とくに子どものためというわけではない音楽も聴いていただけますが、どんなところが聴きどころでしょうか。

小中学校のアウトリーチでは、プログラムに必ず日本の現代の作曲家の作品を含めていました。何となくボーッと聴きながら、面白い音だったり、好きな響きを発見して心に留めてください。西村・細川は私と同じ世代で国際的にも認められた日本を代表する存在ですが、西村さんは残念ながら2年前に亡くなりました。どれもシューマンやドビュッシーといった西洋の作曲家とは違った、独特のピアノの使い方がされています。西村さんの、ピアノを共鳴の楽器として、細川さんのピアノの内部(鍵盤ではないところ)の音の追求、武満は一番変化に富んでいて、ピアノ(弱奏)の音色変化といきなりの強烈な密度が増してくるようなフレーズに驚かされるでしょう。私たちの世代は、表現においても技術においても、この武満の影響をととも受けています。子どもにはゲームの音楽とかエンタメ系の音楽はすーっと入っていくかもしれませんが、そうした曲の2～3分の持続ではなく、そうではないもう少し長い持続の音楽も聴いてほしい。

最後に、静岡の子どもたちと、子どもを育む大人たちへのメッセージを。

感受性が豊かな多くの子どもたちを育てたいと思っています。音楽家になって欲しいよりも、良い音楽の聴き手になってほしい。現在は昔よりも子どもに、より多くの自由が与えられているでしょうか。しかし世界の変化は早く、次がどのような世界になっていくのかははっきりとは分かりません。子どもが今後どのような社会でどのように生きていくのかについて、不安を抱えていらっしゃる親も多いことでしょう。ぜひ音楽を身近に置いてほしいな、と思っています。音楽の楽しみのコツやすべを身につけて、と言いたいです。最近音楽大学の学長をしていますが、どこでも音楽を学習してきた人は重宝がられていますよ。

## 子どものためのコンサート

野平一郎 ピアノ・リサイタル  
～記憶と現在～

# 音の旅

22歳以下  
¥1,000

3/7 土

15:00 開演(14:30 開場)  
指定席 ¥2,500 (静岡音楽館倶楽部会員¥2,250)  
親子券 ¥3,000 [Pコード=285-322]  
※3歳児からご入場いただけます。(チケットが必要です。)

出演  
野平一郎(ピアノ、おはなし)

曲目  
野平一郎：バラード(1969)  
R.シューマン：《子どもの情景》op.15 より  
西村朗：星の鏡  
細川俊夫：夜の響き  
武満徹：ピアノ・ディスタンス  
間宮芳生：《はほんのこども》2 より 輪舞 アマナ 米搗唄  
C.ドビュッシー：《子どもの領分》より  
野平一郎：《音の旅》より 子守唄 メリーゴーラウンド 舞踏会にて《思い出》より  
《未来の子供達へ》(2025年度静岡音楽館AOI委嘱作品 世界初演)

# 中澤未帆(オルガン)

## インタビュー

大好評「オルガン ¥500コンサート」シリーズ。新しい季節の訪れが待ち遠しい3月に開催されるスプリング・コンサートには、AOIのオルガンと関わりの深い中澤未帆さんが出演されます。

パイプオルガンとの出会いや、勉強のきっかけを教えてください。

もともとプログレッシヴ・ロックやゲーム音楽が好きで、その中で時折パイプオルガンの音色が効果的に使われていて…そんなこともあり、ずっと憧れの楽器でした。初めて本物のパイプオルガンを聴き、弾いたのは高校生のとき。「パイプオルガンで合唱の伴奏をしてみないか」と音楽科主任の先生が提案してくださり、喜んで引き受けたものの、いざ弾いてみると他の鍵盤楽器とは何もかもが違う！これは苦い思い出になりました…(笑)。この時の「こんなに難しい楽器を弾きこなす人がいるのか！」という驚きが私をパイプオルガンに向かわせたのだと思います。

これまで沢山のオルガニストが受けてきた「横浜みなとみらいホール・オルガニスト・インターンシッププログラム」を修了されていますが、そこではどんな内容の研修を受けたのでしょうか。

このプログラムでは、ホール・オルガニストに必要な業務について幅広く研修を受けることができます。演奏の研修はもちろん、楽器の構造やホールの運営などについても学びました。中でも印象に残っている研修はパイプオルガン“ルーシー”のメンテナンス業務です。ホール・オルガニストと聞くときらびやかなイメージを持たれる方が多いと思いますが、実は日々楽器の様子に気を配り、楽器を良い状態に保つのが大切な仕事の一つです。楽器を守るという点でのオルガニストの役割の大きさをひしひしと感じました。

2021年の「AOIのオープン・デイ」出演や、オルガンコンサートのアシスタントとして、AOIのオルガンとたくさん接してきた中澤さんですが、当館のパイプオルガン(愛称:ジョリイ)の印象がありましたら教えてください。

久しぶりのジョリイとの再会がとても楽しみです！これまで多くの方がジョリイを演奏するのを間近で聴いてきましたが、演奏者によって毎回違った表情を見せてくれる、万華鏡のようなオルガンだと思います。ですので、コンサートに伺うのがいつも楽しいオルガンです。個人的には、特にジョリイの持つ爽やかな風のような、軽やかに繊細さを持つ表情が魅力的だと感じていて、今回もその良さを引き出せるような演奏、レジストレーション(音色選び)をしたいと思っています。

今回のプログラムは、ドイツ(バッハ)、スペイン(カバニリエス)、イタリア(ストラッチェ、モリコーネ)、フランス(デュプレ)、そして日本(近藤岳)と、国際色豊かですね。遊び心や折り、民族性、映画的ロマンを1時間で体感できる、非常に魅力的な選曲になっています。プログラムの聴きどころなどをご紹介いただけますか？

今回は春にまつわる曲を中心に、ジョリイの様々な表情を楽しめるプログラムを考えてみました。隣り合う曲はそれぞれ緩やかに関連性を持っています。コンサートの始めには春を思わせる心が弾むような作品、そして世代を超えて愛される旋律をお届けします。中盤には暖かな南欧生まれの色彩豊かな作品たちを、そしてコンサートの終わりには受難節のためのバッハのコラールから深い祈りの世界へと向かいます。3曲目



の《春うらら～日本の春の歌による～》はオルガニストの荻野由美子さんが現みなとみらいホール・ホールオルガニストの近藤岳さんに委嘱・初演された曲で、日本の春にちなんだ唱歌や童謡が散りばめられたメドレーです。皆さんご存じの曲が次々聴こえてきますよ！

最後に、コンサートに向けてお客様へメッセージをお願いいたします。

パイプオルガンはホールと一体となっている楽器で、まさにライブで聴いて感じてこそ！の楽器だと思います。ぜひジョリイの響きを体感しにいらしてください。静岡のみなさまと再会できるのを楽しみにしております！

ありがとうございました！プロのオルガニストによる演奏をお気軽に聴きいただける楽しいコンサートです♪皆さまのご来場をお待ちしております。

# オルガン

## ¥500コンサート

スプリング・コンサート  
中澤未帆(オルガン)

3/20 金・祝

14:00 開演(13:30 開場) ※15:00 終演予定  
自由席 ¥500 [Pコード=285-335] ※未就学児入場不可

曲目  
J.S.バッハ：オルガン協奏曲 ト長調 BWV592 より 第1楽章  
J.C.ケルル：(かっこう)によるカプリッチョ  
近藤岳：春うらら～日本の春の歌による～  
E.モリコーネ/A.モリコーネ：映画「ニュー・シネマ・パラダイス」メドレー  
B.ストラッチェ：スバニョレッタによるアリア  
J.カバニリエス：第7旋法のティエント  
J.S.バッハ：おお人よ、汝の大きいなる罪を嘆け BWV622  
M.デュプレ：行列と連祷 op.19-2